徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

R03/08
27号

〒770-0812 徳島市北常三島町２丁目34番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

医局長就任にあたって思うこと

2年前に大学病院から当院に赴任してまず感じたのは、医師同士が診療科の垣根を越え、コミュニケーションが良く取れているということでした。当院には、日常の診療で何かあればすぐに医師同士が相談できる土壌と環境が整っているように思います。コロナ禍の今においてもその姿勢は貫かれ、管理者、院長を中心に皆が力を合わせて様々な難題に取り組んでいます。皆が協力して前に進んでいく姿勢こそが、当院の最大の強みかもしれません。

ありきたりですが、医局長の抱負として、次の３つを挙げたいと思います。

① 先生方一人ひとりの意見が反映されるようにしたい。

② 目に見える形で速やかに行動したい。

③ 決定されたことは周知、徹底したい。

①に関しては、一人ひとりの意見を100%叶えることはできませんが、可能な限り皆様の意見に耳を傾けたいと思います。②に関しては、いくら皆で決めても行動しなければ何も変わりません。“Yes, we can.“の精神で良い意味でのチェンジができるように実行したいと思います。③に関しては、今は極めて流動的な時期で、多くのことが急に決定されることが多々あります。古典的ですが最も確実な紙ベースで、医局会の決定事項を先生方に配布し周知、徹底したいと思います。メディカルスタッフの皆さんにも情報共有できるよう、共通フォルダ内に医局会の決定事項をファイルで残したいと思います。

医局長として、医師のみならずあらゆる職種のスタッフとの情報共有、協力を重視することは、地域医療への貢献にも繋がると思っています。今後とも、ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。（泌尿器科 福森 知治）

がんセンター副センター長就任にあたり

現在のがん治療は、手術、化学療法(抗がん剤、分子標的薬)、放射線療法、免疫療法などの集学的治療が重要となっています。当院は2015年にがんセンターを設置し、腫瘍外来（腫瘍内科、腫瘍外科、血液腫瘍内科、腫瘍精神科、緩和ケア外来）とともに口腔ケアや心のケア、がん看護、がん相談などを行い、患者さんとそのご家族を含めたトータルケアに取り組んでいます。

質の高いがん診療を行うために、「キャンサーボード」にて多職種による情報共有、分析、症例検討等を行っています。また当院でがんを治療中、あるいは治療した患者さんのうち、救急診療が必要となる可能性がある方には「あんしんカード」を交付し、常時対応できる体制を整えています。さらに入院患者さんにおいては、緩和ケア対象の方のみならず、手術や化学療法前後の患者さんへの「がんのリハビリテーション」を積極的に行っています。

このたび4月より、がんセンター副センター長を拝命いたしました。専門分野が化学療法中心の血液内科であり、外来化学療法室長についてもあわせて任ぜられました。近年の化学療法の進歩はめざましく、次々と新たな薬剤が承認され、化学療法レジメンも複雑化しています。腫瘍外来はもとより、院内における化学療法の円滑な運用のために精進いたします。

新型コロナウイルス感染症は、がんセンター運営にも大きな影響を及ぼしています。今後も様々な変化が押し寄せてくることが考えられますが、徳島市民病院がんセンターがより一層発展できるように努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。(血液内科 橋本 年弘)

災害拠点病院施設整備工事竣工

当院は、平成24年3月に徳島県より地域災害拠点病院に指定され、地域の災害医療の中心的役割を担ってきました。そのような中、令和元年7月に災害拠点病院指定要件の一部が改正されたため、院内において様々な検討を重ね、令和3年1月から施設整備工事を進めてきました。地下埋設貯油槽及び据置型受水槽を、敷地南側の駐輪場を解体（一部再整備）して整備するという工事でした。

新型コロナウイルス感染拡大のため資材の入荷が遅れるなどの影響はありましたが、4月末から５月にかけて重油タンク、受水槽の搬入・設置が行われました。6月には消防局、水道局など公的機関による各種検査が行われ、周辺工事も含めて6月30日に竣工となりました。

最終的な使用可能重油量は、以前の10,950リットルから21,950リットルへ、保有水量は300トンから444トンに増加し、それぞれ約3日分の備蓄となりました。南海トラフ地震の切迫性も高まる近年、当院は災害拠点病院としての責務を果たし、緊急時の医療提供に支障を来さない体制作りを続けて参ります。　（広報管理室　竹内 明子）

当院敷地内南側に完成した据置型受水槽（画面左）
及び貯油槽（画面右 駐輪場奥、黄の斜線部分地下）

入院前抗原定量検査開始

当院では3月1日から手術室、血管造影室へ入室する患者さん全員に新型コロナウイルス抗原定量検査を行い、陰性であることを確認しておりました。

しかし4月、徳島県内の医療機関において院内クラスターが多数発生しました。感染拡大防止のため、当院では4月27日から“入院される患者さん”、“日帰り手術をされる患者さん”、“上部内視鏡検査・処置を受けられる患者さん”、“当院からお願いした入院患者さんに付き添いをされる方”、“徳島県外から来院する業者”といった方々全員に新型コロナウイルス抗原定量検査を行い、必ず陰性であることを確認しております。

原則、直近の平日9時か13時に来院していただき、ドライブスルー方式で検体採取をしておりますが、やむを得ない事情にて直近の平日が不可能な方は、当日9時と13時に職員通用口付近で、ウォークスルーにて実施しております。感染制御室が中心となり、検体採取は院長をはじめ各先生方に順番で担当していただいております。

ドライブスルー方式で検体を採取する三宅院長ら

当院では、日々感染対策を徹底しつつ、入院や手術等を受ける患者さんにもご協力いただき、医療従事者と共に安全で安心な入院や手術ができるよう取り組んでいきます。　（患者支援センター 森田 敏文）

スペシャリストの活動報告会

6月29日、令和2年度の認定看護師等活動報告会が開かれました。専門看護師・特定行為看護師・認定看護師・医療安全管理者の皆さんが、昨年度の活動内容を総括し、報告する場です。今回が9回目の開催となり、当初4～5名であった報告者も今年は15名となりました。

一番手のがん看護専門看護師・佐藤 智子さんは、専門看護師の主な役割、企画した各種勉強会の内容、困難事例の意思決定支援やコンサルテーションの実践等について語りました。特定行為看護師の籔原 由紀子さんは、研修センターでの授業内容に関する説明後、資格取得に伴う周囲の変化、術中麻酔管理等の現在行っている特定行為について報告。糖尿病看護認定看護師の森川 誠子さんは、病棟や外来での患者支援や地域における生活習慣病予防活動、現在進行中のチェックリスト作成と記録方法の検討、今後の目標等について話しました。

ここで、認定看護師11名が昨年度の活動内容を順に総括コメント形式で発表。最後に、医療安全管理者の真柴 敦子さんより、各種会議･委員会資料作成やレポート確認等の日常業務、看護協会での活動やコロナ禍での感染症対策の研修等についての報告が行われました。

それぞれの専門性や強みを生かした取り組みを共有し、今後の活動に繋がる報告会となりました。　（広報管理室）

糖尿病看護認定看護師として

私が糖尿病の勉強を始めたのは、異常なほどの食べ物への執着があり、このままでは自分が糖尿病になるかもしれない！と思い、少しでも知識を身に付けておきたいとの単純な理由でした。まさに健康信念モデルの罹病性ですね。（笑）

しかし勉強をしていくうちに、周囲の専門職の方達が、徳島県の糖尿病合併症予防のために色々な活動をしていることを知りました。自分にもできることから頑張ろうという意識が高まり、まずはLCDE(徳島県糖尿病療養指導士）の資格を取得しました。その後、徳島文理大学地域連携センターにて半年間修学し、血糖パターンマネジメントやフットケア、チーム医療などを学び、糖尿病看護認定看護師となりました。

糖尿病は合併症予防のための二次予防に力を入れることが、患者さんのQOLをできるだけ維持していくことに繋がります。患者さんを中心としたチームが大切であり、多職種連携が必要になってきます。当院でも、透析予防外来を実施しており、フットケア外来の設立を目標としています。

今はコロナ禍で様々な活動ができない状況ではありますが、皆さんも是非一緒に糖尿病について学び、自分自身や周囲の方々の健康を守っていきましょう。

（7階病棟　森川 誠子）

病棟にWi-Fi導入

これまで外来でのみ使用可能だった無料Wi-Fi（Tokushima_City_Wi-Fi）ですが、5月17日より病棟でも無料Wi-Fi（TMH_Wi-Fi）が利用できるようになりました。

以前から患者さんの要望が多かったことに加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響で家族との面会が原則中止となっているため、オンライン面会を支援するための措置でもあります。無料のWi-Fi環境を病棟に導入するのは、県内の300床以上の公的病院では初めての取り組みです。

導入時には徳島新聞やNHKニュースに取り上げられ、7月には読売新聞より取材を受けました。変異ウイルスデルタ株の感染拡大が懸念される中、患者さんとご家族の重要な連絡手段の一つとなることが期待されます。

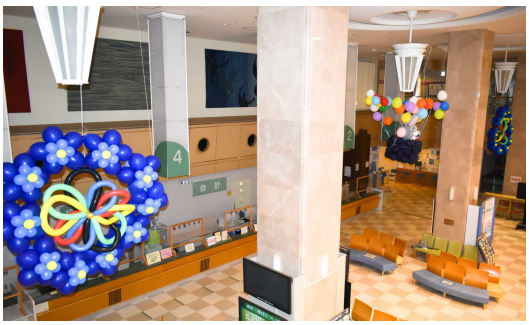
願いを込めたバルーンアート

早いもので、バルーンクラブ発足から8年が経過しました。バルーンアートを楽しみたいという数人の集まりからの出発でしたが、会員の皆様に支えていただき、活動の輪を広げることができました。

しかし、昨年からのコロナ禍により職務及び日常生活は一変し、バルーンクラブも定期の活動は休止しています。会員の皆様にはイベント時のお願いをするだけの状態で、申し訳なく思っています。

バルーンクラブメンバーの皆さん

今年は、色々な憶測も飛び交う中でのオリンピック開催となりましたが、無事に終了するよう平和への願いも込めバルーンアートを制作しました。



3灯のシャンデリアの下にも色鮮やかな作品が

お忙しい勤務の合間にご協力いただいた会員の皆様、及び設置に関わって下さった方々に心より感謝申し上げます。

（看護部付　松永 郁子）

病院見学サポート

当院では随時、医学生の病院見学を受け入れています。

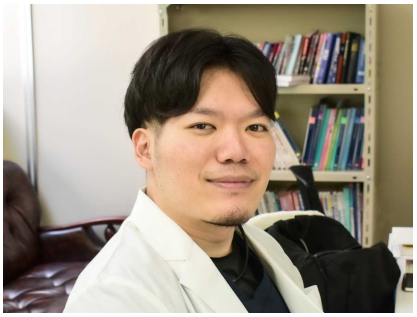
県内在住者は14日前より健康観察票記入、県外在住者は7日前から県内に滞在し健康観察票記入、前日には抗原定量検査を受け、陰性を確認してから見学を行います。コロナ禍のため、院内見学を中止している医療機関も多く、現在は特に希望者数が増加しているとのことです。

4月に行われたレジナビFairオンライン(医学生向けのWeb臨床研修病院説明会)に参加し市民病院に興味を持った、という学生もおり「現場の雰囲気に触れられる貴重な機会」と好評です。

研修先を探す医学生が求める情報を的確に発信しつつ、今後も見学希望者のサポートを続けていく予定です。

研修医日記

臨床研修医2年次　**高橋 啓輝**



初期臨床研修医２年目の高橋 啓輝（たかはし ひろき）と申します。徳島大学病院の研修プログラムで4月から9月までの半年間、市民病院で研修させていただいています。

軽く自己紹介をいたします。私は徳島県出身で、城東高校を卒業するまで18年間を徳島市で過ごしました。高校卒業後は福岡県にある福岡大学医学部に入学し、勉強しつつ都会での大学生活を満喫してきました。卒業後は徳島大学病院研修医として徳島に戻り、昨年12月まで徳島大学で、今年の1月から3月までは田岡病院救急科で研修をしていました。2年目は大学に戻るか、引き続き外病院に出るか悩んでいましたが、当時の研修医の先輩たちから市民病院での研修を勧められたこともあり、市民病院で2年目のスタートを切ることに決めました。

市民病院の研修については、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、産婦人科、小児科、泌尿器科で順に学んでいます。病院に不慣れなため、一日一日が長く感じることもありましたが、大学では経験できなかった症例や手技などを経験することができ、毎日楽しく研修させていただいております。

気がつけば、すでに研修期間の終わりが近いことにびっくりしています。まだまだ未熟で分からないことだらけのため、先生方やコメディカルの皆さんに助けられてばかりですが、それが当たり前にならないように日々精進しなければいけないと思っています。残り1ヶ月と少しですが、毎日を有意義な研修とできるよう頑張りますので、よろしくお願いします。

編集：徳島市民病院 広報管理室　〒770-0812 徳島県徳島市北常三島町2丁目34番地　TEL: (088)622-5121（内線 2333）